

1 1 2 《聖マタイの召命》の真実

髭男の左手は【V字指差し動作】ではない

2024

真鍋友範



* 中央髭男の左手の二本の指動作に注目

1 髭男の左手は、本当に【V字指差し動作】なのか

まず、ルネサンス・バロック美術史に造詣の深い成城大学教授・石鍋真澄氏のネット論文《カラヴァッジョの聖マタイ伝連作をめぐる二、三の考察》を読んでいただき、私の気になった部分の感想を述べさせていただきたい。まずは、下記の該当部分を抽出した。

イタリアでは日本のように人差し指だけを用いて何かを指さすことはなく、親指と人差し指をV字にして用いるという点だ。無数の作品中の人物が、このことを証明している。たとえば、レオナルド・ダ・ヴィンチの《岩窟の聖母》や《洗礼者ヨハネ》を思い出せばよいだろう。（*本文の縦書きを、横書き表示に変換させて頂きました。）

この部分での注目点は、【イタリアでは日本のように人差し指だけを用いて何

かを指さすことはなく、親指と人差し指をV字にして用いるという点】になる。

しかし、この説明は、不完全な論説だろう。

何故なら、確かに【親指と人差し指をV字にしては用いる】人もいたのだろうが、一方で、それ以外の動作で人を呼ぶ動作を行うイタリア人も存在したということだ。

石鍋氏は、上記の根拠として、レオナルド・ダ・ヴィンチの《岩窟の聖母・ルーブル版》にある天使の指差し動作を挙げておられるが、この指の状態は、【親指と人差し指をV字にして用いる指差し動作】ではないと判断できる。



指の位置関係を観察すると、正確には、【親指は、天使の中指のある下側に向かって伸びており、V字型の指差し動作ではない。】

指摘のある《洗礼者ヨハネ》に登場する人物の指さし動作も、よく見ると単純なV字型指差し動作ではない。ここでも、【親指は、曲げられた中指に接しており、V字型の指差し動作ではない。】

また、カラヴァッジョの描いた《イサクの犠牲》に登場する天使の指さし動作は、どうだろう。

これは、《岩窟の聖母・ルーブル版》にある天使の指差しと同様に、V字型であっても、親指は単独で指差ししておらず、これも親指が中指に接触する形で描かれており、V字型の指差し動作とは認識できない。

しかしながら、親指と人差し指をV字型にして、自身を指すケースのその他の画家の描画例があるとも認められる。例えば、石鍋氏が例に挙げられているマッティア・プレーティという画家の《ペテロの否認》1637-40にあるペテロのV字型の、自身を指す指差し身体動作だ。確かに、V字で自身を指差す動作である。(*《カラヴァッジョの聖マタイ伝連作をめぐる二、三の考察》P・37図38)

また、ヘンドリック・テル・ブルッヘンの《聖マタイの召喚》1621での髭男の右手の動作は、少し微妙な角度のV字描写ではあるが、V字形の自身を示す身体動作だ。



つまり、【厳密には、人によっては、V字型の指差し動作もありうる】、ということだ。これには同感だ。けれども、これを一般論にはできない。

2 自身を示す身体動作

実は自分自身を示す身体動作は、多種存在する。

- ① 両手の開いた掌を胸に当てる。これは《最後の晩餐》に登場する12使徒の一人の動作だ。裏切り者は私ではないと、強調している。
- ② 二つ目は、片手の開いた掌を胸に当てる。
これは、ハリウッド映画《逃亡者》の中で、ハリソン・フォード演じる医師が、片腕の男である犯人のカルテを盗み見るために、病院に侵入した折、女医から、急患患者の移動依頼を受ける。『その人、手伝って』と呼ばれたハリソン・フォードは、片手の掌を開いて胸に当て、無言で『自分ですか』と、答えるシーンがあった。
- ③ 親指を自身の胸に当てる動作『ここでは、(貴方ではなく)私が奢るよ』の意味合い時の動作

④ 日本人なら、大抵は、人差し指を鼻に当てるはずだ。

このように、自分自身を示す動作は、多種存在する。

3 カラヴァッジョの描く親指と人差し指の特徴

けれども、《聖マタイの召命》で、カラヴァッジョの描いた髭男の左手の親指と人差し指の動作は、決してV字型の指差し動作ではない。

【親指は、上方に向かっている。】【言い換えるなら、V字型ではなく、90度角度の異なる二方向表示型なのだ。】

この動作は、なぜ発生したのか。科学的に身体動作を検証すれば、明確だ。

つまり、【直前に、髭男の胸に向かって親指を差し出し、連続して人差し指を隣のメガネの男に人差し指を向けた場合しか、生じない動作なのだ。】

【カラヴァッジョの場合は、決してV字型指差し動作を描いていない。】

むしろ、カラヴァッジョの描く、指し示す身体動作の特徴は、カラヴァッジョが描いた《ロザリオの聖母》の中にある身体動作こそが、証拠となるだろう。



《ロザリオの聖母》1606-07 カラヴァッジョ

カラヴァッジョの描く登場人物の親指の身体動作の持つ意味を考察すれば、真実が見えてくる。

《ロザリオの聖母》は、画面左側の聖ドメニコ僧に対し、親指と人差し指でメッセージを伝えている。【V字型指差し動作ではない。】

その内容は、「イエスの教えを、あなた（聖ドメニコ僧）が民衆に伝えなさい」なのだ。

【カラヴァッジョは、親指と人差し指の両方に対し、異なる対象を示す意味を与えている。】

繰り返すが、【決してV字型の単純な指差し動作ではない】のだ。

つまり、ローマ・カトリックの教会派の主張する、髭男こそがマタイであり【私をお呼びですか】とするマタイの動作解釈は、間違いなのだ。

仮にも、それが正しいのなら、カラヴァッジョの描くイエスの対応動作は、深く頷くポーズであった筈なのだ。

【しかし、そのようには描かれていない。】



* もう一度、髭男左手の動作をよく見よう。親指は真上に向かっている。

* ただし、連続動作前半の【親指を自身の胸に当てるポーズは描画されていない。】

* 決して石鍋氏の指摘する【V字指差し動作ではない。】

この《聖マタイの召命》での髭男の動作は、ロザリオの聖母は聖母で、カラヴァッジョの描いた描き方と同様の、【二方向の対象を意味する、二段階の連続動作であり、動作だ。】

つまり、髭男の左手の意味は、『お探しの方は、私ですか、それとも隣の眼鏡の人ですか』となり、石鍋氏の指摘する【V字型の自身を指さず指差す動作】ではないのだ。

さらに説明すると、髭男が二段階質問動作を、親指と人差し指を用いて2者択一をイエスに迫ったからこそ、イエスは左手を上げ掌を開いて、質問に応答したのだ。